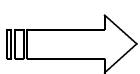


1 リスニング能力育成のポイントは？

まとまった英文を聞き取る力につけるためには、まとまった英文を聴かせる訓練が必要です。本文の導入は、単語の意味のみ事前に指導したり、別な単語に置き換えるなどの配慮をして、積極的なオーラルイントロダクションかオーラルインタークションでの導入を図ることは、基本的で大変効果的な手立てです。

その後、概要把握を確認するためにTFやQAを行いましょう。そこから細部の指導に入ります。

○オーラルイントロダクション



True or False Test
Q and A

2 長文の読解力を付けるには？

まとまった分量の英文を家庭でしっかりと和訳させる訓練をしましょう。辞書を使用せず、単語の意味を結びつけても何とか意味を類推して訳させる経験を重ねさせましょう。本文2, 3行をひとまとまりとして番号を付けて家庭学習として与え、次時の最初に各自に板書させ、お互いに自分の訳と比較する訓練も生徒の意欲を駆り立てます。

3 丁寧に授業をすると進度が不安！

授業で行える学習と家庭でやらせたい学習を教材に応じて分けましょう。

例えば、時間がかかる英作文は、家庭で辞書を使わせ時間をかけて苦労させてはどうですか。大切なことはその英文をしっかりと評価してあげることです。一つの方法としては、英作文の家庭学習を与え、次の授業前の休み時間にきちんとやってきた生徒は全員黒板に英文を書いておきます。それを授業の開始時に教師が全員に注目させて一文ずつ指導してきちんと評価します。時間はかかりますが、生徒は家庭でしっかりとチャレンジするようになります。

4 スムースな音読はどうするの？

自由に読みの練習をする時間を取りましょう。モデルの後の一斉読みだけでは各自の能力が異なるために、正しくナチュラルなスピードで読めるようにはなりません。終わりの時間を決めて「Practice 3 times or Practice 2 minutes」などの指示も有効です。その時に机間指導で助けてあげることが大切です。